



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2019年 No.1
(通巻58号)
1月20日発行

新年のご挨拶

バオバブの会会長

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

バオバブの会に関わってくださっているすべての皆様に、この紙面で、ご支援への感謝と新年のご挨拶を申し上げます。2019年が、皆様にとって、健康と平安と公私にわたる成功の年となりますようお祈り申し上げます。

2018年は、日本にとって平和な年ではありませんでした。それは、毎年恒例の「今年の漢字」が「災」であったことからわかります。皆様のまわりにも大きな被害を受けられた方がいらっしゃったと思います。被害地域の復興が一日も早く進みますよう、そして、本年は、昨年と変わって、平安と幸福の年となりますよう、ご一緒にお祈りいたしましょう。

ご存知のように、バオバブの会の活動終了まで2年を残すのみとなりました。けれども、その2年間は今まで以上に困難な年となることが予想されます。定期支援は、一昨年に支援先が2か所増えましたので、14校と1グループになりました。バオバブの会の資金力を考えるとこれが限界ですが、支援の要請は後を絶ちません。定期支援外でできる限り対応しようということで、昨年は、タタ・ロッシンボウ保育園に開設支援、ゴディバフランコアラブ学校に図書購入費を贈りました。

また、本年は、第7回アフリカ開発会議（TICAD7）が横浜で開催されます（2019年8月28日～30日）。したがって、バオバブの会も、多くの関連イベントに参加のお誘いを受けることと思います。しかし、私たちは、私たちの力が、無理なく、また、十分に発揮できるイベントを選択して参加しようと決めています。なぜなら、力には限りがあり、すべてはできないからです。思えば、こう考えたからこそ、2020年の活動終了を決めたのでした。

ひとつの世代がやってきて、何らかの貢献をし、やがて去っていく。すると、次の世代がやってきて新たな貢献をする。これが永遠の継続性の中での社会の構築というものです。

そして、私たちは、バオバブの会の活動はけっして無駄なものではなく、ささやかではあるけれども確かな貢献をしてきたと信じています。なぜなら、教育は社会の未来にとって最高最大の効果をもたらす投資であり、その支援は最も重要なものだからです。

どうか、この2年間、皆様方と力を合わせて、最大限の実りある活動を行っていただけますように！

イベント案内

よこはま国際フォーラム2019 yokohama-c-forum.org/wpforum/

日時：2019年2月2日（土）・3日（日） 11:00～17:10 （開場10:30、受付終了16:50）

会場：JICA横浜

主催：よこはま国際フォーラム2019プロジェクト

<構成団体>（特活）横浜NGOネットワーク/JICA横浜/公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)/神奈川大学

◆事前申込期間：2019年1月4日(金)～30日(水)

◆参加費：事前申込 500円(1日につき)・当日申込 700円(事前申込優先)

*高校生以下は無料 *障害がある方の介助者は1名まで無料

*参加費はフォーラム当日に受付にてお支払いください。

◆事前申込方法：Web上のオンラインフォームからお申し込みください。

国際協力・多文化共生に関わる団体がセミナーやワークショップを開く、毎年恒例のフォーラムです。
バオバブの会は3日（日）にディウフ会長が講座を行ないます。

※※※※※ バオバブの会のセミナー ※※※※※

日時：2月3日（日） 15:20～17:10（途中10分の休憩あり）、

会場：4F やまゆり

テーマ：「セネガルの人々の寛容性はどこから来るのか ～セネガルのイスラムと教育～」

90パーセントの人々がムスリムといわれるセネガル。

しかしイスラム教のとかく厳格なイメージとは異なり、セネガルの人々は寛容で柔軟性に富んでいます。

キリスト教との共生、昔ながらの呪術やアニミズムがいまなお暮らしの中に生きていること、西洋的な民主主義とセネガルの村の暮らしに息づいていた伝統的な民主主義の共存などなど、セネガルのムスリムがさまざまな人やものをおおらかに受け入れ、自然に取り入れている例は多く見られます。

セネガルの人々の寛容性はどこから来るのでしょうか

バオバブの会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993 - 35

TEL&FAX 045 - 373 - 0059 HP : <http://the-baobab.org>

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215

三菱UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no. 1523673